

「海辺の環境学習を通して、生物多様性の大切さと 海域環境保全の必要性を学ぶ」

～企業×NPO 海的环境意識向上で持続可能な未来

NPO 法人オーシャンファミリー海洋自然体験センター
代表理事 海野義明

〈2018.02.01 CSR-NPO 未来交流会講演より抜粋〉

1985年から約30年間、海的环境活動、海を守る活動を行ってきました。海は広く、深くその変化が市民の目にもあることは少ないです。多くの海洋生物学者は、海の変化を危惧し、特に変化の少なかった深海生物に二酸化炭素、酸性化はものすごく大きな影響問題です。

そして海は生命現象にかかせない重要な場所、ここを守っていかなければと思います。

NPO 法人オーシャンファミリー海洋自然体験センター

NPO 法人オーシャンファミリー海洋自然体験センターは、東京都の三宅島に50数年にわたり在住していた東京都三宅島にて海洋生物学者ジャック・モイヤー博士が、海洋環境教室三宅島サマースクールを開始し、海洋生物を観察するなどを行ってきました。将来的には海的环境を考えて欲しいという活動を行ってきました。

三宅島の噴火により2年間は都内で、そして葉山で拠点活動を再開しました。

葉山に来て驚いたのは、海で子供たちが遊んでいないことです。葉山の海岸は、磯、浜、磯、浜といった豊かな自然環境です。2002年のころでした。2003年に子供たち17名の参



加で、海の子供教室を葉山で始めました。

2018年 現在、250人ぐらいの子供たちが、ほぼ毎日参加する海の子供教室となっています。海が中心ですが、竹林、森林の荒廃により海の豊かさが失われつつあることも知られ、子どもたちには、海を守るには、川、森、山も大切なことを学んでもらう活動や最近海にやさしい暮らしを考える取り組みとして、農業体験を実施しています。子供たちは大豆を植えて、みそ、豆腐づくりに取り組み、や田んぼづくりなども実施する予定です。

外洋汚染や海洋問題・地球環境問題を子どもたちに説明するのではなく、海を楽しく、面白く、海の生き物が可愛く、好きになることを教えています。

連携協働について すべての人に海を！

海を中心に未就学の子供たち、小学生、親子教室などを対象に、体験活動を行っています。団体、学校、企業に向けても窓口を開いています。

個人向けの体験活動だけでなく、より多くの方に「海の楽しさ、素晴らしさ、大切さ」を感じて頂くため、設立当初から企業、学校、行政をはじめ各種団体と連携、協働の事業を数多く行ってまいります。学校と連携できれば、多くの子供たちが海に親しむことができますし、企業と組めば機材活動の窓口となりますし、



障害を持つ方には、できるだけ支援の手を差し伸べています。そんな思いを強くなりましたのは、大震災です。

<http://oceanfamily.jp/collaboration2>

東日本大震災を通じた連携協働

唐桑半島を拠点に生活支援活動を実施してきました。そして

気仙沼・唐桑半島・鳴き砂の浜は、気仙沼市民にとり宝物です。この砂浜の保全に取り組み、全国に声をかけ、ボランティアの方、漁民の避難所生活の方、地元の方を含め、もちろん企業の方等を含め合計550の方が参加し、2日間で80トンのゴミを出すことができました。屋根や漁船などを解体して、これが多くの人たちの手による改善できた実感でした。

また、海は他人ごとではなくなり、2年間で100日ぐらい通い、気仙沼の水中調査や南三陸水産資源調査などに協力いたしました。

また福島の子供たちは、三浦半島に呼び、120人の子供たちが春休み過ごして頂きまし

た。ボランティア 250 人が参加し、得意な分野を持つ企業さんも協力参加していただきました。これらを通して連携の重要さをますます強くしました。

企業との連携は、海の体験教室・海は楽しいおもしろい、生き物のふれあいを通して、企業さんとの連携させていただきました。詳細はHPをご欄ください。他にも、障害者支援や海専門の団体などとも連携しています。

ニッスイさんとの企業連携事例

企業事例はニッスイさんと共同したり、中間支援の日本環境教育フォーラムそして現場対応オーシャンファミリーで連携して、「海域の生物多様性理解と環境保全活動の促進」をテーマに主に社員向けの家族への体験活動を実施しています。

実施は、2014年に三浦半島 葉山の磯で、2015年2016年、東京湾で、自然再生していく生物多様性も重要ということで、葛西臨海公園西なぎさで行いました。

里海保全体験

ニッスイさんは海の生態系を守るのは使命と表明しているように、海の保全活動には実績を積んでいます。環境報告書にありますので詳細はHPをご欄ください。

葉山の磯の観察や漂着物など貝殻など生物に関すること、漂着ゴミについての体験学習です。

葛西臨海公園は多くの生き物が再生しています。残念なことに、貧酸素水塊もあります。

プログラムの流れ

I 里海保全体験 葉山の海岸

- 海辺の景観を俯瞰し海川森のつながりを感じる。
- 磯の生物観察を通して干潮帯の生物の豊かさを知る。
- 海岸漂着物（生物・海岸ごみ）の観察、貝殻や海藻など打ちあがり生物から海の豊かさを知る、同時に海岸ごみの観察を通して環境問題を考える。
- ピーチクリーンアップを通して海岸ごみの多様さ複雑な環境問題に気づく。
- 講義：生物多様性の理解



カキの浄化実験なども通して自然循環の仕組みを学習しました。

プログラムの流れ

Ⅱ 生物多様性学習講座 葛西臨海公園 西なぎさ

- ・ 干潟の生物観察を通して東京湾の生物の豊かさに気づく。
人工再生した自然での生物のたくましさも理解する。
- ・ カキの水質浄化実験を通して生物の自然浄化機能を知る。
- ・ 講義：生物多様性の理解



ニッスイは36年にわたり子供の海に関する学習にも支援しており、海に来て体験学習する対応をオーシャンで行いました。海と魚自由研究作品コンクール

磯の観察からマリンクラフトを作ったり、絵日記を書いたり海外の交流も行い各地連携しています。今後も連携をしていきますので、お声掛けください。最後に、理念は「好きになったら守らずにいけない」

好きになったら守らずにいけない

- 自然・海・環境を守るより、守る人を育てたい。
- 環境問題を子どもに説明しすぎると、子どもは環境を汚染する人が悪者と解してしまう。
- まずは、海が楽しく面白くすばらしい感動があれば、好きになり守りたくなる。そのような教育を32年続けてきました。
- 進学と進路が全てではありませんが、スクールの卒業生の多くが海洋関係、環境関係、教育関係に進んでいます。
- 海洋環境が改善されていくためには全人類の全活動が海洋環境に配慮されてものになる必要があります。子どものときからそのことが当たり前になれば未来良くなっていくはずです。
- 市民・行政・企業等全ての主体が関わっていただくことを願っています